

12月新着図書



野庭すすかけコミュニティーハウス

おひとり3冊まで、2週間（新着本は1週間）借りられます。

ライオンのおやつ

著者名：小川糸

余命を告げられた雫は、残りの日々を瀬戸内の島のホスピスで過ごすことに決めた。そこでは毎週日曜日、入居者がもう一度食べたい思い出のおやつをリクエストできる「おやつの時間」があった。毎日をもっと大切にしたいくなる物語。

逃亡小説集

著者名：吉田修一

職を失い、年老いた母を抱えて途方に暮れる男。一世を風靡しながら、転落した元アイドル。道ならぬ恋に落ちた、教師と元教え子。そして、極北の地で突如消息を絶った郵便配達員。彼らが逃げた先に、安住の地はあるのか。人生の断面を切り取る4つの物語。

巡礼の家

著者名：天童荒太

ベストセラー『永遠の仔』『悼む人』の著者が故郷・道後温泉を舞台に描く、現代社会への「希望の灯火」。「お遍路さん」を迎える場所として道後温泉にある架空の宿「さぎのや」。行く場所も帰る場所も失った15歳の少女は、この宿の美人女将からこう声をかけられる。「あなたには、帰る場所がありますか」女将や地元の人々との交流を通じて、少女は、自らの生き方と幸せを見つけられるか。「他者に対して不寛容になっていく時代だからこそ、手を差し伸べて、希望と悲しみを分かち合う理想郷が必要である」と語る天童さんが紡いだのは、「本当の幸せ」を見つけるための物語。

記憶の盆をどり

著者名：町田康

犯人当てミステリー、ホラーサスペンス、異世界ファンタジー、お伽話の現代語訳、そして美少年BLまで。短編の名手が演じる小説一人九役！



カエルの小指 a murder of

著者名：道尾 秀介

意外な依頼人からはじまる大事件！『カラスの親指』から時を越え——あいつらが帰ってきた！！

小箱

著者名：小川洋子

小箱の番人、歌でしか会話ができないバリトンさん、息子を失った従姉、遺髪で竖琴の弦をつくる元美容師…「おくりびと」たちは、孤独のさらに奥深くで冥福を祈っている。『ことり』以来7年ぶりの書下ろし長編小説。

介護のうしろから「がん」が来た！

著者名：篠田節子

直木賞作家・篠田節子が、乳がん発覚から術後までの怒涛の日々—検査、手術、乳房再建、同時進行で認知症の母の介護—を、持ち前の取材魂をもとにユーモア溢れる筆致で綴る、闘病&介護エッセイ。聖路加国際病院プレストセンター乳房再建担当医との特別対談を掲載。

祝祭と予感

著者名：恩田陸

大ベストセラー『蜜蜂と遠雷』、待望のスピノフ短編小説集！大好きな仲間たちの、知らなかった秘密。入賞者ツアーのはざま亜夜とマサルとなぜか塵が二人のピアノの恩師・綿貫先生の墓参りをする「祝祭と掃苔」。芳ヶ江国際ピアノコンクールの審査員ナサニエルと三枝子の若き日の衝撃的な出会いとその後を描いた「獅子と芍薬」。作曲家・菱沼忠明が課題曲「春と修羅」を作るきっかけになった忘れ得ぬ教え子の追憶「袈裟と鞆」。ジュリアード音楽院プレ・カレッジ時代のマサルの意外な一面「竖琴と葦笛」。楽器選びに悩むヴィオラ奏者・奏へ天啓を伝える「鈴蘭と階段」。巨匠ホフマンが幼い塵と初めて出会った永遠のような瞬間「伝説と予感」。全6編。

背中の蜘蛛

著者名：菅田哲也

ついに、ここまできた——。前人未到、孤高の警察小説が誕生した。東京・池袋の路上で男の死体が発見された。目撃者もなく捜査は難航、しかし「あること」がきっかけになり捜査が急転。それから約半年後。東京・新木場で爆殺事件が発生。こちらもな捜査はなかなか進展しなかったが、「あること」が転換点となり容疑者が浮かぶ……。捜査に携わる管理官を中心に、新時代の警察捜査を濃密に描く。著者史上、もっとも尖った警察小説。

